

## 令和3年度ネットリサーチ「人権意識」に関するアンケート結果報告書

### ■結果のポイント

- 「人権」が大切だと思うかについては、「そう思う」(52.2%)と「少しそう思う」(25.5%)を合わせた【そう思う】が77.7%となっている。一方で、「あまりそう思わない」(2.7%)と「そう思わない」(1.2%)を合わせた【そう思わない】が3.9%となっている。
- 力を入れるべき人権の分野については、「子ども」が41.7%で最も高く、次いで「障害のある人」が40.7%、「女性」が39.5%と続く。
- 性的マイノリティに対する差別や偏見のない社会を実現するために必要なことは、「教育現場での啓発活動の実施」が31.0%で最も高く、次いで「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が29.8%と続く。

### ■調査結果の概要

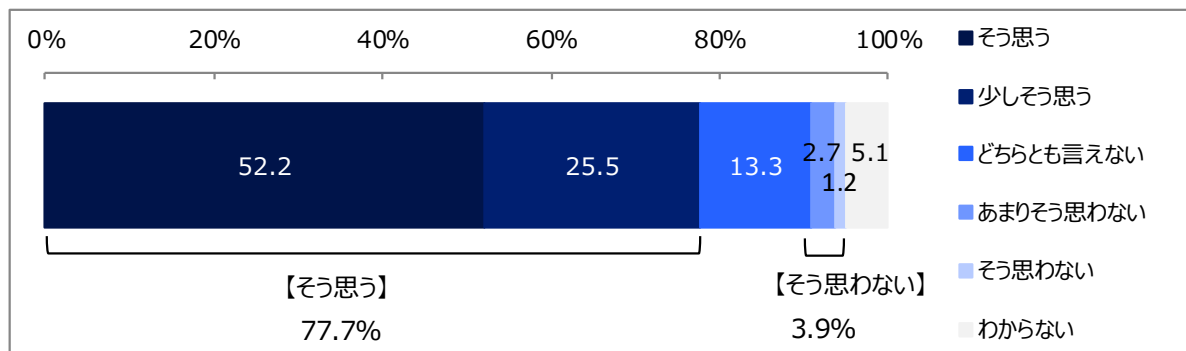
#### 1 「人権」の大切さについて

- ◇ 「そう思う」(52.2%)と「少しそう思う」(25.5%)を合わせた【そう思う】が77.7%となっている。
- ◇ 一方で、「あまりそう思わない」(2.7%)と「そう思わない」(1.2%)を合わせた【そう思わない】が3.9%となっている。

Q1.あなたは日常生活の中で「人権」※が大切だと思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
そう思う	52.2	522
少しそう思う	25.5	255
どちらとも言えない	13.3	133
あまりそう思わない	2.7	27
そう思わない	1.2	12
わからない	5.1	51



※「人権」とは、「人が人らしく生きていくために社会によって認められている権利」であり、誰もが生まれながらにして持っている、誰からも侵されることのない基本的権利のことです。

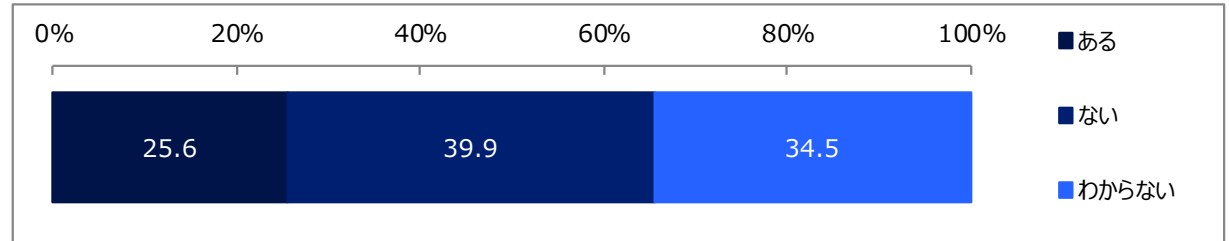
## 2 人権が侵害された経験

◇ 「ある」は25.6%、「ない」は39.9%となっている。

Q2.あなたは、自分の人権が侵害されたと感じたことがありますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
ある	25.6	256
ない	39.9	399
わからない	34.5	345



## 3 人権が侵害されたと感じた状況

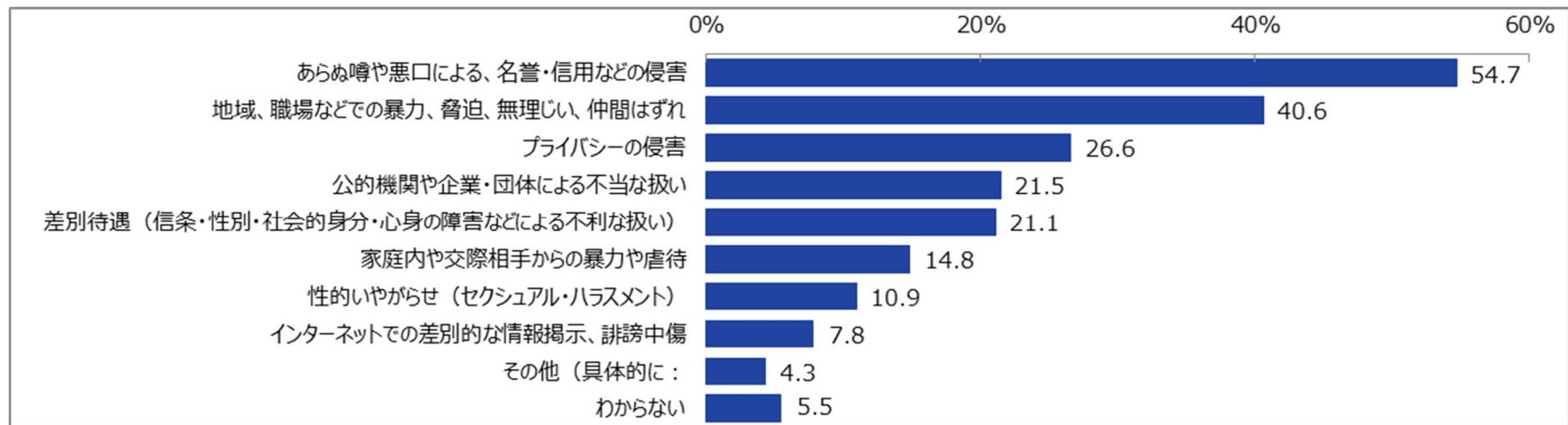
◇ 「あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」が54.7%で最も高く、次いで「地域、職場などでの暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ」が40.6%と続く。

(Q2で「1.ある」と回答した方へ)

Q3.それはどのような場合ですか。差し支えがなければ、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	256
あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害	54.7	140
地域、職場などでの暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ	40.6	104
プライバシーの侵害	26.6	68
公的機関や企業・団体による不当な扱い	21.5	55
差別待遇（信条・性別・社会的身分・心身の障害などによる不利な扱い）	21.1	54
家庭内や交際相手からの暴力や虐待	14.8	38
性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）	10.9	28
インターネットでの差別的な情報掲示、誹謗中傷	7.8	20
その他（具体的に：	4.3	11
わからない	5.5	14



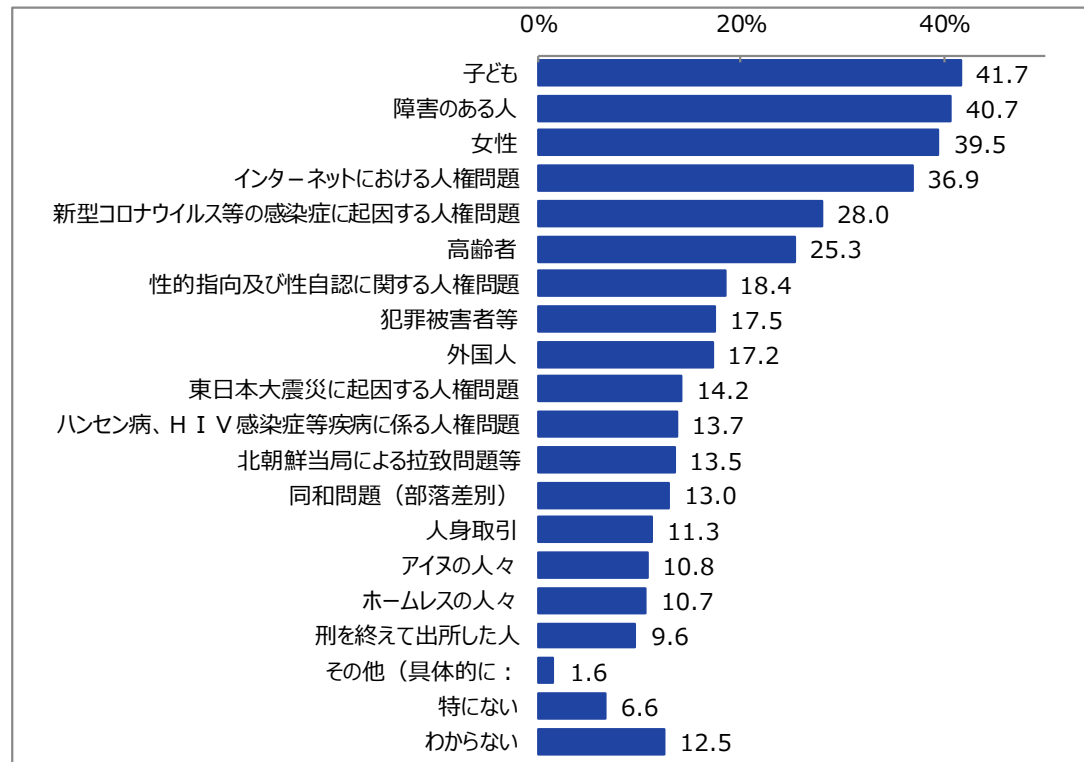
#### 4 力を入れるべき人権の分野

◇ 「子ども」が41.7%で最も高く、次いで「障害のある人」が40.7%、「女性」が39.5%と続く。

Q4.人権にはさまざまな分野がありますが、今後、どの分野に力を入れていくことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
子ども	41.7	417
障害のある人	40.7	407
女性	39.5	395
インターネットにおける人権問題	36.9	369
新型コロナウイルス等の感染症に起因する人権問題	28.0	280
高齢者	25.3	253
性的指向及び性自認に関する人権問題	18.4	184
犯罪被害者等	17.5	175
外国人	17.2	172
東日本大震災に起因する人権問題	14.2	142
ハンセン病、H I V感染症等疾病に係る人権問題	13.7	137
北朝鮮当局による拉致問題等	13.5	135
同和問題（部落差別）	13.0	130
人身取引	11.3	113
アイヌの人々	10.8	108
ホームレスの人々	10.7	107
刑を終えて出所した人	9.6	96
その他（具体的に：	1.6	16
特にない	6.6	66
わからない	12.5	125



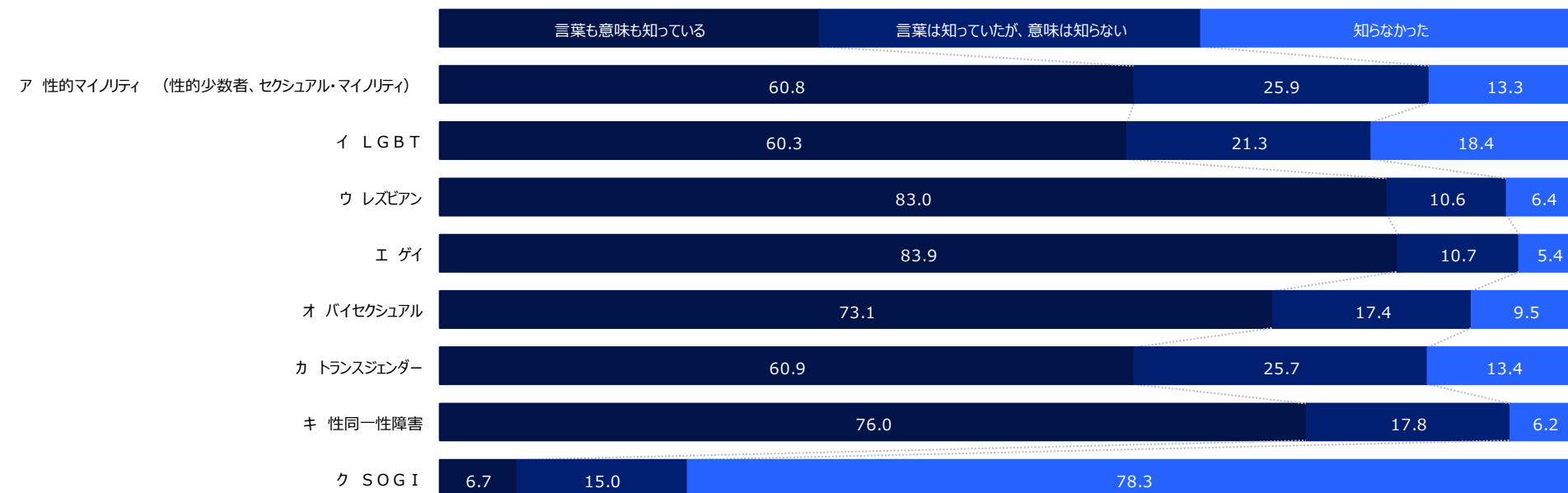
## 5 性的マイノリティに係る言葉の認知状況

◇ 「言葉も意味も知っている」言葉では、「ゲイ」が83.9%、「レズビアン」が83.0%と高くなっている。

◇ 一方で、「知らなかった」言葉では、「SOGI」が78.3%と高くなっている。

Q5.あなたは、次のア〜クの言葉と意味について知っていますか。（ア〜クについて、それぞれ1つずつ）

SA



	%	言葉も意味も知って いる	言葉は知っていたが、 意味は知らない	知らなかった
ア 性的マイノリティ (性的少数者、セクシュアル・マイノリティ)	100.0	60.8	25.9	13.3
イ LGBT	100.0	60.3	21.3	18.4
ウ レズビアン	100.0	83.0	10.6	6.4
エ ゲイ	100.0	83.9	10.7	5.4
オ バイセクシュアル	100.0	73.1	17.4	9.5
カ トランスジェンダー	100.0	60.9	25.7	13.4
キ 性同一性障害	100.0	76.0	17.8	6.2
ク SOGI	100.0	6.7	15.0	78.3

※性的マイノリティとは、同性に恋愛感情を持つ人や、生まれ持った性（出生時の性）と心で感じている性（自認の性）が一致しない人などのことを言います。

※LGBTとは、L（レズビアン：女性の同性愛者）、G（ゲイ：男性の同性愛者）、B（バイセクシュアル：両性愛者）、T（トランスジェンダー：性同一性障害・性別違和など）の頭文字を合わせた言葉で、性的マイノリティをあらわす総称の一つです。

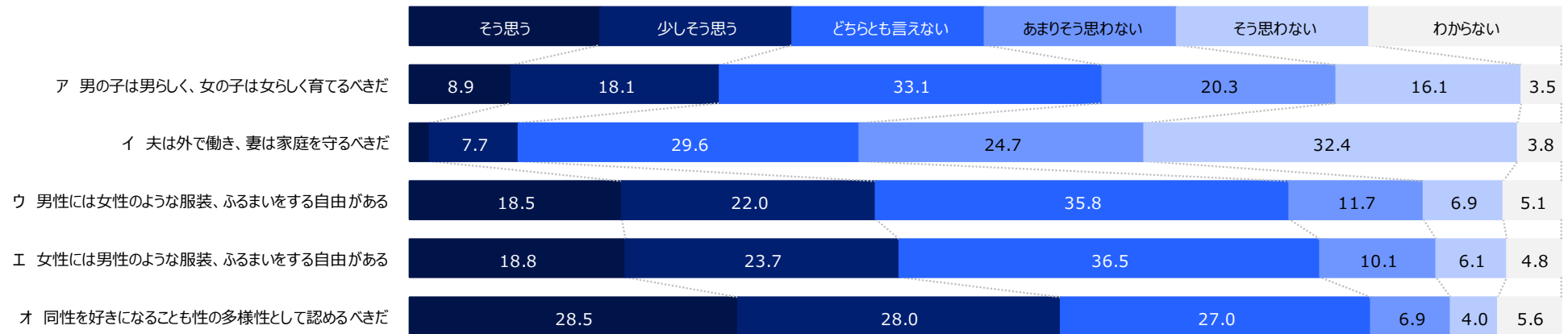
※SOGIとは、「性的指向」（Sexual Orientation、恋愛感情や性的な関心がどの性別に向いているか）と「性自認」（Gender Identity、「私は男（女）である」等の、自分がどの性別であるかについての内面的・個人的な認識）の頭文字を合わせた言葉です。

## 6 性別に関わる意識

- ◇ 「同性を好きになることも性の多様性として認めるべきだ」について、「そう思う」(28.5%)と「少しそう思う」(28.0%)を合わせた【そう思う】が56.5%となっている。
- ◇ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」については、「あまりそう思わない」(24.7%)と「そう思わない」(32.4%)を合わせた【そう思わない】が57.1%となっている。

Q6. 次のア～オについて、あなたのお考えやお気持ちにもっとも近いものはどれですか。(ア～オについて、それぞれ1つずつ)

SA



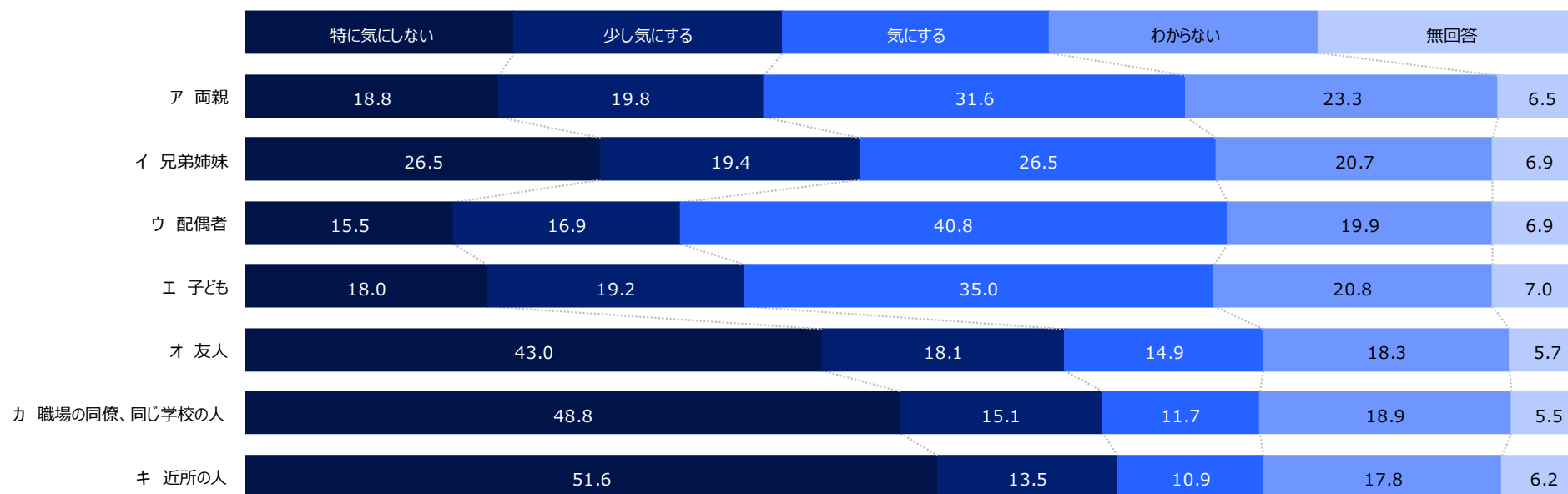
	%	お考えやお気持ち						集計	
		そう思う	少しそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	【そう思う】	【そう思わない】
ア 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	100.0	8.9	18.1	33.1	20.3	16.1	3.5	27.0	36.4
イ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	100.0	1.8	7.7	29.6	24.7	32.4	3.8	9.5	57.1
ウ 男性には女性のような服装、ふるまいをする自由がある	100.0	18.5	22.0	35.8	11.7	6.9	5.1	40.5	18.6
エ 女性には男性のような服装、ふるまいをする自由がある	100.0	18.8	23.7	36.5	10.1	6.1	4.8	42.5	16.2
オ 同性を好きになることも性の多様性として認めるべきだ	100.0	28.5	28.0	27.0	6.9	4.0	5.6	56.5	10.9

## 7 身近な人が性的マイノリティだった場合の感じ方

☆ 「特に気にしない」では、「近所の人」が51.6%、「職場の同僚、同じ学校の人」が48.8%と高くなっている。

Q7. 次のア～キの方が性的マイノリティだったとした場合、あなたはどのように思いますか。（ア～キについて、それぞれ1つずつ）

SA



	%	特に気にしない	少し気にする	気にする	わからない	無回答
ア 両親	100.0	18.8	19.8	31.6	23.3	6.5
イ 兄弟姉妹	100.0	26.5	19.4	26.5	20.7	6.9
ウ 配偶者	100.0	15.5	16.9	40.8	19.9	6.9
エ 子ども	100.0	18.0	19.2	35.0	20.8	7.0
オ 友人	100.0	43.0	18.1	14.9	18.3	5.7
カ 職場の同僚、同じ学校の人	100.0	48.8	15.1	11.7	18.9	5.5
キ 近所の人	100.0	51.6	13.5	10.9	17.8	6.2

## 8 性的マイノリティの当事者か

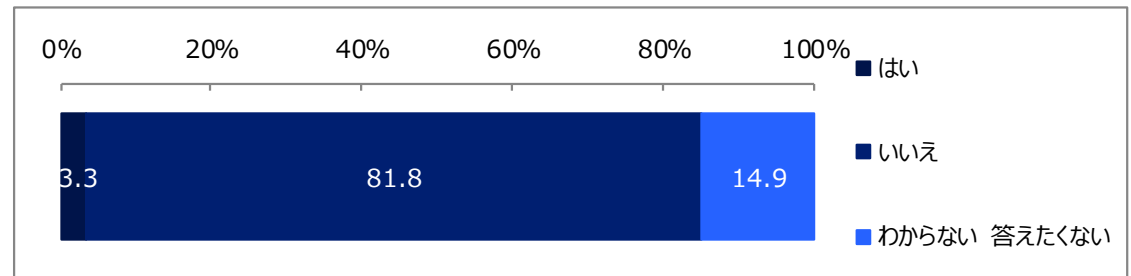
◇ 性的マイノリティの当事者かどうかについて、「はい」が3.3%となっている。

Q8.あなたご自身は、性的マイノリティの当事者ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

ただし、わからない場合や答えたくない場合は「3.わからない 答えたくない」を選択し、Q10へお進みください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
はい	3.3	33
いいえ	81.8	818
わからない 答えたくない	14.9	149



## 9 性的マイノリティであることの公表

◇ 「性的マイノリティであることを周囲に打ち明けている」は、33人中17人となっている。

(Q8で「1.はい」と回答した方へ)

Q9.あてはまるものを全て選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	33
性的マイノリティであることを周囲に打ち明けている	51.5	17
性的マイノリティであることを自身の了解なく暴露されたことがある	21.2	7
どちらも該当しない	48.5	16

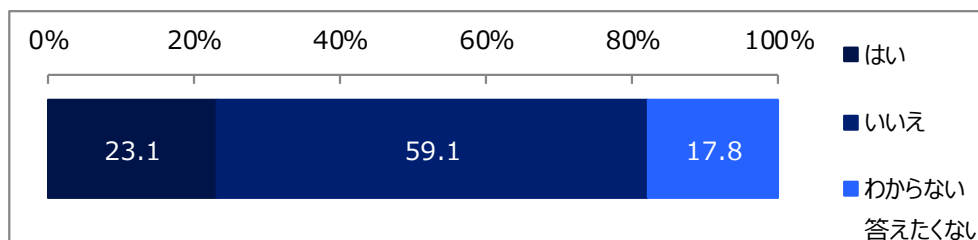
### 10 周りに性的マイノリティの方がいるか

◇ 周りに性的マイノリティの方がいるかについて、「はい」が23.1%、「いいえ」が59.1%となっている。

Q10.今まで、あなたの知り合いで、性的マイノリティの方はいましたか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
はい	23.1	231
いいえ	59.1	591
わからない 答えたくない	17.8	178



### 11 性的マイノリティの方との関係性

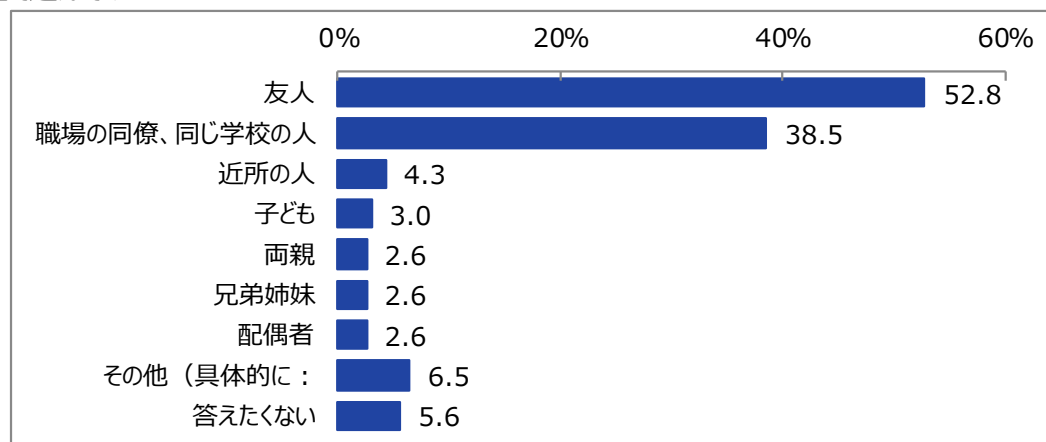
◇ 「友人」が52.8%で最も高く、次いで「職場の同僚、同じ学校の人」が38.5%と続く。

(Q10で「1.はい」と回答した方へ)

Q11.それは、あなたにとってどのような関係の方ですか。あてはまるものを全て選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	231
友人	52.8	122
職場の同僚、同じ学校の人	38.5	89
近所の人	4.3	10
子ども	3.0	7
両親	2.6	6
兄弟姉妹	2.6	6
配偶者	2.6	6
その他（具体的に：	6.5	15
答えたくない	5.6	13





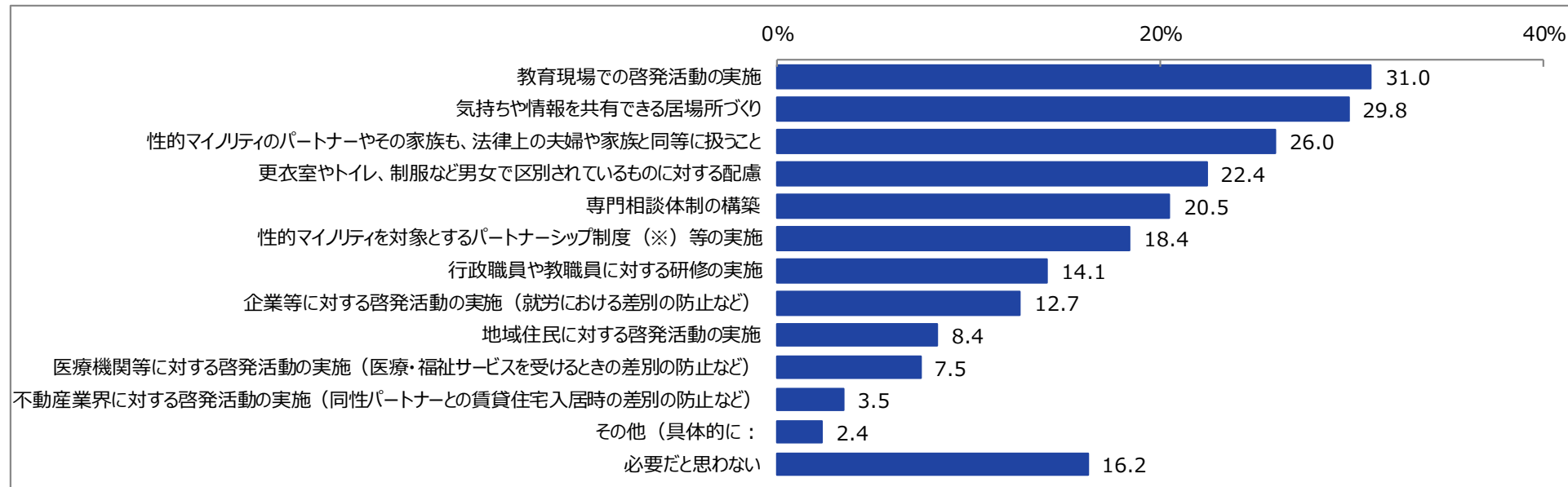
## 12 性的マイノリティに対する差別や偏見のない社会に向けて必要な取組

◇ 「教育現場での啓発活動の実施」が31.0%で最も高く、次いで「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が29.8%と続く。

Q12.あなたは、性的マイノリティに対する差別や偏見のない社会を実現するためには、何が重要だと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
教育現場での啓発活動の実施	31.0	310
気持ちや情報を共有できる居場所づくり	29.8	298
性的マイノリティのパートナーやその家族も、法律上の夫婦や家族と同等に扱うこと	26.0	260
更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮	22.4	224
専門相談体制の構築	20.5	205
性的マイノリティを対象とするパートナーシップ制度（※）等の実施	18.4	184
行政職員や教職員に対する研修の実施	14.1	141
企業等に対する啓発活動の実施（就労における差別の防止など）	12.7	127
地域住民に対する啓発活動の実施	8.4	84
医療機関等に対する啓発活動の実施（医療・福祉サービスを受けるときの差別の防止など）	7.5	75
不動産業界に対する啓発活動の実施（同性パートナーとの賃貸住宅入居時の差別の防止など）	3.5	35
その他（具体的に：	2.4	24
必要だと思わない	16.2	162



※パートナーシップ制度とは、性的マイノリティのカップルが互いに人生のパートナーであると宣誓したことを自治体が証する制度です。

県のいばらきパートナーシップ宣誓制度については、こちらをご覧ください。 <https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/fukushi/jinken/ibarakipartner.html>

## ■調査の目的

県民の「人権」に対する意識や人権問題への認識について把握し、人権施策の成果の確認や、より効果的な啓発手段等の考察など、今後の人権教育・啓発活動の推進に役立てる。

また、県民の性別にかかわる意識や、性の多様性についての認識の状況について調査し、今後の啓発活動や、多様性を認め合う社会づくりに向けた施策に反映させる。

## ■実施概要

- ・実施期間 令和3年6月11日～6月18日
- ・サンプル数 茨城県常住人口調査（令和3年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル

回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		116	246	96	353	189	1,000
性別	男性	60	125	51	181	99	516
	女性	56	121	45	172	90	484
年代別	18～29歳	18	42	17	66	33	176
	30歳代	17	43	17	62	31	170
	40歳代	24	57	21	83	42	227
	50歳代	27	53	19	72	39	210
	60歳代	30	51	22	70	44	217

県北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡

県央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡

鹿行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市

県南：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡

県西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。